

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600908		
法人名	株式会社 オフィス21		
事業所名	グループホーム はなえみ		
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_Q22_kani=true&JigyosyoCd=0174600908-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 2 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平屋建てで、2ユニットを運営しており、各ユニットは玄関横の渡り廊下でつながっています。付近には、小・中学校や食品スーパー、ドラッグストア、クリーニング店、美容室などがあり、利用者の方が買い物や髪セットに出かけたりします。町内会に入会しており、町内会行事に参加しています。中学校の体験学習の受け入れをしたり、近くの保育園の運動会や発表会の総練習を見に行ったり、また、園児さんにホームに来てもらったりと、地域の方との交流もあります。月に1度の行事や毎週水曜日に行う趣味の会では、交流を兼ねてユニット合同で行い利用者の方が喜んでいただける事を考慮しながら、職員が企画し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住環境の一画にあり、近くに小学校・中学校があります。スーパー等も近隣に位置し、利便性が良い環境となっています。運営者は高齢者から児童の支援まで多種の事業を運営し、それぞれの年代への専門的な支援と共に、幅広い年代の交流や地域とのつながりが利用者の生きがいにつながっているということを運営にも反映しています。異年齢交流として開設当時から中学校の体験学習を受け入れています。3年前からは幼稚園や保育所と交流があり運動会や発表会に職員と一緒に参加しており、園児はホームにも来訪しています。高齢者の生活に配慮された共有空間や居室は清潔に整っています。理念は職員に浸透しており利用者も職員も穏やかに信頼関係や馴染みの関係が築かれています。ケアの質を高めるため、外部研修や事業所内研修を受けながら、ケアの統一を図り利用者の尊厳とプライバシーを守り明るく穏やかに暮らせるように支援を行っています。家族との絆を大切に考え、職員は明るく家族の話に常に耳を傾け信頼関係が築かれています。月1度の行事があり、毎週水曜日趣味の会では使用者は折紙・ぬりえ・漢字練習など好きな事を行っています。ボランティアの人達が多数来訪しています。管理者と職員は家族からの信頼も厚く提携医療関係者と情報を共有しながら看取りも行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員が利用する事務所の壁に貼り付けてあり、いつでも確認できるようになっている。職場内研修で、理念の意義を確認し、共有している。常に意識しながら、利用者とかかわっている。	職員へのアンケート調査の中でも理念についての項目を設け、理念の理解を深めています。管理者と職員は面談や日々の業務の中で理念の意義を確認しています。理念をお互いに確認することでモチベーションを高め実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、行事に参加しています。地域にある美容室に行ったり、利用者の希望により近くの店で買い物等しています。最近は近くの保育園や幼稚園との交流が盛んになっています。	春と秋の清掃や夏と秋のお祭り等町内会の行事に参加したり、保育園や幼稚園と交流を持つなどしています。事業所は通学路に面している為、最近は小学校の下校時に利用者と話をして帰る子供も増えています。地域住民が事業所の行事に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に参加したり、ホームの避難訓練に地域の方に参加していただいたり、利用者に対しての理解を得られるような、交流をしています。ホームで認知症サポーター養成講座を開き、認知症への理解が深まるような取組みも行いました。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方、民生委員、地域包括支援センターの方、ご家族の方に参加していただいています。なるべく多くの方に参加していただく為、全ご家族に会議開催の案内をしています。いただいた意見は、速やかに業務に反映できるよう取り組んでいます。	運営推進会議は定期的に開催されています。町内会・民生委員・地域包括支援センター・家族等の参加があります。利用者の近況や事業所からの報告等を行い、会議で得られた意見はサービス向上に活かすよう取り組んでいます。	家族の参加が少ないため、議題内容や開催時間等多くの家族が参加出来る工夫を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時にその都度、連絡を取っています。事故があった場合は、速やかに報告しています。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げて、自分達の介護が身体拘束となっていないか話し合い、確認しています。玄関の施錠については、利用者の状況により、意識解放する時間帯を増やす取組みを行っています。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ外部研修に参加したり内部研修を行っています。職員会議で確認を行い身体拘束のないケアに取り組んでいます。センサーも家族の同意を得て使用をしています。夕方は5時頃に施錠をしていますが家族の理解を得ています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、それを勉強会として行い、職員全員が学ぶ機会を設けています。管理者、主任は、職員が利用者との間に虐待につながるストレスを抱えていないか、職員とコミュニケーションを取り把握に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している方がいるので、全職員が、制度を理解し学べる機会を持ちたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明には、一つ一つ時間をかけて行い、その都度質問に答え、ご家族の要望をお聞きし、納得いただいたから、署名、捺印をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望をお聞きしたり、玄関にアイデアボックスを設置し意見を言いやすい環境づくりをしています。意見をいただいた時は、速やかに対応しています。	家族とのコミュニケーションを大切に、来訪の際には必ず管理者や職員が声かけを行い利用者の近況を伝えています。家族から意見があれば速やかに対応しています。アイデアボックスを設置していますが要望・意見等は入っていません。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の職員会議、年1回のOJTチェック評価の面談等を通じて意見を聞くように努めています。	職場内チェック表をもとに職員アンケートを取り個人面談を行っています。常にミーティングや会議の中でも話し合いを行い職員のアイデアや提案を聞きながら運営に反映出来るように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任は、常に職員の動向等を代表者に報告し、職員の能力や職場環境について話し合い、職員一人一人に合わせた仕事配分や条件をその都度見直しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェック評価を導入し、職員が気づく場面を作り面談しながら職員が求めている事を把握し職員個々の能力に合わせた研修に参加できるように調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同じ町内会のグループホームと災害時の協力支援の契約を結んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人が困っている事や要望をお聞きし、早期に不安が解消できるように初回のケアプランに反映させています。職員は、入居前の状況をしっかりと把握し、その方らしく過ごせるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から受け入れまで、管理者と主任が一貫してかわり、ご家族が困っていることや要望が言いやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の状況を詳しくお聞きし、求めている事を見極め、必要であれば、他のサービスの提案をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立の相談をしたり、食事の配膳や掃除、洗濯物たたみ等、一人ひとりができる事や役割的なことを見つけ一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の会話から家族の思いや願いをくみ取り、ご家族と同じ目線で支えられるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会時には、ゆっくりとお部屋で過ごせるように配慮しています。	家族と一緒に馴染みの美容室に行っています。蕎麦の好きな利用者と馴染みの蕎麦屋に行っています。友人の訪問時は居室でゆっくり過ごせるように配慮をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等を通じて交流できるようにしています。個々の気持ちを大切にしながら、日常の様子で気の合わない人同士の配慮に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、対応できる体制はできています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、本人の様子を記録し、本人の希望や意向の把握に努め、速やかに対応するようにしています。	利用者の日常の生活の中から出る言葉や思いをくみ取り意向の把握に努めています。言葉での把握が困難な場合は家族と相談し、本人本位に検討をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りしたり、ご家族にお聞きしたり、入居後コミュニケーションをとる中で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の細かな変化を記録し、職員全員が把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングをし、それぞれの意見も反映させながら、介護計画を作成しています。	全職員でカンファレンスやモニタリングを行い、本人と家族の意見を聞き、現状に即した介護計画を作成しています。必要な時はかかりつけ医と相談も行っていきます。利用者ごとの記録が詳細に記録されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を個々の記録の表紙につけておき、いつでも確認できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化や要望に対応し、その時に必要な支援ができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に行ったり、美容室や買い物に行ったりと、施設内だけでなく地域にある資源が利用できるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては、医療提携している医療機関より月2回の往診を受ける事ができます。専門医については、ご家族、もしくはご家族の依頼を受けて通院介助を行っています。	かかりつけ医への受診は家族が対応していますが、家族の希望によっては職員も対応をしています。医療連携医による月2回の往診があり適切な医療を受けられるように支援を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関には、こまやかに相談でき、速やかに対応してくれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ADL状況の情報提供をしたり、本人の経過を問い合わせたりしています。必要があれば、医師による病状説明時に、ご家族と同席させていただく事もあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	提携の医療機関の協力のもと、ご家族の意向を十分に確認し、施設でできる事を伝えています。	看取りの指針を家族に説明しています。家族の意向や希望を聞きながら提携医療機関と話し合い、看取りの介護についての同意書に同意を得ています。今年度も看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを掲示して常に確認できるようにしています。救急救命の講習に積極的に参加し、その内容を勉強会として、他の職員に伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修等で、避難の方法を学び身に着けたり、町内会の方にも、避難訓練に参加していただき、協力体制を築いている。	事業所では年2回の防災訓練を実施しています。訓練には地域住民の参加があり、協力体制を築いています。市に防災計画を作成提出しています。	定期訓練の他に自主訓練も行いながら地震や水害時の避難方法についてや職員と地域住民の役割を決めるなど、有事の災害に共同で対応出来る対策を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のみなさんは、人生の先輩である事を第一に考え、敬語で対応しています。	利用者の尊厳やプライバシー確保について、事業所内で研修会を行い実践に繋げています。聞こえの悪い利用者には何気なく近くに寄り話しをしたりトイレ誘導をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いを聞き取る事や選択肢の中から自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのタイミングを見極め、できるだけ希望に添うことができるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整髪や服装、その人らしさを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、季節感を取り入れ、利用者のリクエストを加えています。食事の下ごしらえや下膳等、できることを一緒にしています。	職員が利用者の嗜好を把握して献立を作成しています。庭で作った野菜が食卓に上がり楽しく食事をしています。行事食を取り入れたり外食もしています。利用者はできることを活かして職員と一緒に下ごしらえや下膳等を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表には、摂取した量を書き込み、一人ひとりの摂取量を把握しています。食事の形態、量はその方に合わせて対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は見守りし、介助が必要な方は行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて、トイレ誘導しています。トイレで気持ち良く排泄できるように配慮しています。	個々の排泄表で排泄パターンを把握しています。必要に応じて排泄誘導を行い排泄の自立に向けた取り組みを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品を取り入れた献立を作成しています。水分を多くとってもらったり、プルーン等、便が出やすくなるような工夫をしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望に添うように対応しています。入浴の苦手な方には、なるべく気持ちよく入浴してもらえようように、声のかけ方の工夫やタイミングをみて対応しています。	時間、曜日などに関係なく毎日入浴を行っています。利用者ごとに週2～3回を目途に入浴の支援を行っています。入浴を楽しみにしている利用者の希望により1日おきに入浴を行っています。入浴の苦手な利用者にはタイミングを見ながら対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や物音には配慮し、必要に応じて、湯たんぽや加湿器、アイスノン等を用意しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、いつでも確認できるようにしています。服薬時に間違えないようにチェック項目を作っています。薬の変更があった時は、体調に変化がないか気を付けて状況を見ていきます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでは、行事や趣味の会を行っており、みなさんが楽しめる事を企画しています。お誕生会では、その方の希望をかなえられるように個別で対応しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、美容室に出かけたり、買い物に行ったり、選挙に行ったりしています。	日常的な近隣の散歩や買い物の他に、家族で行く美容室、春の桜、秋の紅葉、利用者皆で行く回転ずしやドライブでスイーツを食べに行ったり、ときには選挙にも行っています。利用者の希望により外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額でなければ、持っている方もいますがほとんどの方が、事務所で預かっています。行事で出かけた先で買い物したりと、自分で選び購入する大切さを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時には、速やかに対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔感を保ち、心地よく過ごせるように配慮しています。季節を取り入れた飾り(ひな人形、クリスマスツリー)も取り入れています。	共有空間は清潔感があり、ゆったりしています。壁には趣味の会で作った作品や行事写真を飾ったり、季節を感じる鉢植えがあります。季節の飾り付けも行っています。利用者が居室に籠ることなく皆で居間で楽しく過ごせるように工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席、ソファ席や位置等に工夫をし、居心地の良い空間になるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真を壁に張ったり、家庭にいるような雰囲気になるよう工夫している。	居室にはクローゼットが設置されています。家族と相談しながら馴染みの使い慣れた鏡台、椅子、机、本等が持ち込まれています。家族の写真や自分が作った作品等を張ったり居心地よく過ごせるように工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ自らが行動し、それを支援できるように対応しています。		